

久留米大学病院リハビリテーション部
松瀬博夫先生

志波直人名誉教授の影響と支援

2023年1月に教授に就任された松瀬博夫先生は、「子どもの頃からスポーツが好きで医師、その中でも整形外科医を志していました。研修医時代にバイオメカニクス、物理療法、電気刺激に興味を持ち始め、リハビリテーション医学・医療の道に進むことに決めました。この決断にはこの領域のトップ研究者である志波直人名誉教授の影響が大きかったと思います。留学先を決めるときにも志波先生がかつて留学されていたメイヨークリニック関連の先生をご紹介いただきました。そして教授に就任する際にも、ご助言や激励をいただきました。志波先生のもつ世界中の研究者とのネットワークは幅広く、国際宇宙ステーションでの研究成果などがそのすばらしさを物語っています。私が教授に就任してからも、病院内でリハビリテーション部の認知度を上げるために協力してくださいました」と恩師である志波先生への感謝の思いをお話しされました。

留学先での研究が「PM&R Best Original Research Award」を受賞

松瀬先生は米国留学先のカンザス大学で行った研究成果で『2019 Foundation for PM&R/PM&R Best Original Research Award』を受賞されました。この研究論文を執筆した経験が、後の研究姿勢に大きく影響したそうです。

「研究助成金も支給していただいたので、成果を出すために留学先のカンザス大学では研究に真剣に取り組まれました。日本から大量の電極や電気刺激の医療機器を持って行くのが大変でしたが、その努力が実ってたくさんのデータを収集することができ、それをまとめて論文化しました。でき上がった論文を指導教授の Neil A. Segal 先生にみてもらい、何度も書き直しを命じられながら、自分の論文を完成させることにより、論文を客観的に分析して盲点を埋めていくという過程を学ぶことができ、貴重な経験でした」と当時を振り返ってお話してくださいました。

スポーツ好きが電気刺激や運動療法への
関心の原点

松瀬先生が電気刺激や運動療法に興味をもったきっかけは、ご自身がスポーツ好きであることだそうです。「小学校時代は野球部、中学時代はサッカー部、高校はハンドボール部、長崎大学時代は全学のハンドボール部に所属し、現在は久留米大学全学ハンドボール部の顧問をしています。今は忙しすぎて残念ながら運動する時間ありませんが、子どもが成長してテニスができるようになった



松瀬博夫（まつせ・ひろお）教授

2023年1月に教授就任。2001年長崎大学医学部卒業後、久留米大学病院整形外科研修医。2002年久留米大学大学院医学研究科入学（2006年修了）。2003年久留米大学リハビリテーションセンター・リハビリテーション科助教。2012年久留米大学病院リハビリテーション部助教。2013年講師。2018年准教授。2015年米国カンザス大学研究員（1年4ヶ月間）。2023年久留米大学リハビリテーションセンター・センター長を兼任。

ので、なんとか時間をつくってスポーツを楽しみたいです」とスポーツ好きの一面について語ってくださいました。

臨床と研究を両立させ、世界に発信する夢を
共に実現

久留米大学整形外科教室リハビリテーショングループの医師は10名で、リハビリテーション科専門医が9名、そのうち6名が指導医でもあります。専攻医は2人で、毎年3名の専攻医を募集しています。「早期から身体活動を維持・改善し社会復帰を目指して積極的にリハビリテーション治療を実施するためには円滑な多職種連携が重要で、リハビリテーション科医がそれを担っていると考え、若手医師の教育を行っています。久留米大学医療センター内にあるリハビリテーションセンターには、回復期リハビリテーション病棟があり50床を開設していますので、幅広く臨床経験を積むことができます。臨床と研究をバランスよく学び、世界の第一線で論文発表をする…という夢を私たちと実現しませんか？」と松瀬先生は医学会員に向けてメッセージを発信してくださいました。

（文責 広報委員会）